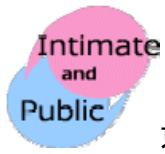


学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	ひらた ともひさ 平田 知久	所属・職名 京都大学 大学院文学研究科研究員 (グローバル COE)
e-mail	tomo-hirata@t02.mbox.media.kyoto-u.ac.jp	
発表題名 (英語)	Comparative Research on Internet cafés in East and Southeast Asian Countries: Their Current Situation and Future	
著者名	平田 知久	
会議名 (英語)	XVII ISA World Congress of Sociology	
開催地(国、市)	Gothenburg, Sweden	
参加期間	2010年7月11日 ~ 7月17日	
<p>ISA World Congress of Sociology は、4年に1度開催される社会学、およびその周辺領域の研究者が集う国際学会であり、社会学関係の国際学会としては最大規模のものである。報告者は RC07 Future Research という分科会の Open Roundtable on Media Research と題されたセッションにおいて報告を行った。</p> <p>RC07 は、その名のとおり、近未来の社会および社会理論に対する強い関心をよせ、それらを研究するための理論的、実証的基盤を整える報告がなされたり、社会学として今後関心が寄せられるべきテーマについてのパイロット調査が報告されたり、あるいは既存の社会学的研究領域をクロスオーバーさせることによって、新たな課題を探求するセッションが開催されたりと、現代社会や近未来に関心をよせる研究者が多く集う分科会である。報告者の課題もまた、既存のメディア研究と都市研究、あるいは若者文化論や移民研究といった、様々な領域を横断するものとして「東アジア・東南アジアのインターネットカフェ」を把握することにあり、ラウンドテーブルという活発な議論が交わされる場において報告ができたことは、研究の知見を高める上で非常に有意義であった。</p> <p>発表では、東アジア（日本・韓国・中国・台湾）と東南アジア（タイ・シンガポール・フィリピン）におけるインターネットカフェのフィールド調査とインタビュー調査の結果から、それぞれの国の中核都市におけるインターネットカフェの集合と分散の様態、および各都市に特徴的に見られるインターネットカフェの利用方法などの分析から、各国のインターネット利用が「余暇的-労働的」、「個人的-社会的」という2組の対概念によって分類できることを示し、当該地域での社会問題や社会学における新しいテーマとの連関について考察を行った。</p> <p>質疑応答としては、各国におけるインターネットカフェ利用のさらなる詳細を訊ねるものの他に、①「ジェンダーとインターネットカフェの関係をどのように考えるのか」といった問題提起や、②「インターネットカフェをどのように定義するか」といった根源的な質問もなされた。特に①の問いに関しては、これまでの調査で得られた事例を紹介するかたちで、むしろジェンダーによってインターネットカフェ利用が強く規定される側面があることを説明し、②の問いについては、インターネット環境が公共空間として開かれている場というかたちで、インターネットカフェを定義す</p>		



学会発表渡航支援報告書

ることが可能であることを論じた。

報告予定者でありかつ司会でもあった方がラウンドテーブルの席に現れないというハプニングもあったが、報告数が減った分、それぞれの議論に綿密な検討が施されることとなり、報告者同士の知識の共有という点では、非常に意義のあるセッションとなった。